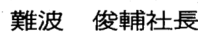


フロンキーパー COP3 期連続出品
基幹事業の店舗冷設を強化



化による提供イメージ

フロンキーパーのデータ

データ200MB

WIFI

収集したデータをクラウドサーバー上で安全に保管

インターネット上のサーバー

管理したデータを元々保存していた場所で読み取り利用

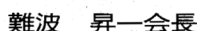
パソコン一括集中管理

セキュリティに関する安全性

データは万一行で送受信し、WIFIでの暗号化通信を利用しています。

選べないお客様と担当営業メールでお知らせ

F K 発明の父は健在



「販売開始されたのは2012年2月のことで既に14年が経過した。その開発者は同社の創業者である難波昇一会長で御年83歳となった。」

ナンバはこれより先の2009年9月に2002年より業界で初となる自社施工機器の10年保証の取組みが評価され日刊工業新聞社が主催する「第12回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞」の優秀賞を受賞した。その後、「フロンキーパー」としての初受賞は、一般社団法人日本冷空調設備工業連合会（一般財団法人省エネルギーセンターが協力した2018年の第35回優良省エネルギー

工業新聞主催「経済産業省・環境省後援 一般財団法人日本冷媒・環境保護全機協力の「第23回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞」ではIoT・フロン漏えい管理システムで環境大臣賞を受賞した。これは2018年と2019年の2カ年に掛けてイー・アンド・イーソリューションズと三菱UFJモルガン・スタンレー証券と共に国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の委託事業として民間主導による低炭素技術普及促進事業（戦略的案件組成促進でマレーシアをはじめ東南アジアにおいてフロン漏えい検知システム「フ

仕
から14年

「ロンキーパー」を用いて、これまで途上国では手付かずだった冷媒漏えいの管理を含む機器運搬の最適化による新たな省エネICTサービス導入を目指すもので本調査ではマラッカ州で冷凍機・空調機を実測し、省エネによるGHG削減ポテンシャルが試算された。

さて初号機開発時はフロンガス漏えいの新たな検知システムとして注目され全国の設備工事業者

第1回中部食品産業創造展へ出展

ナンプバは1月4日から6日の3日間、愛知県名古屋市中港区のポートメッセなごや第1展示場で開催される「第1回中部食品産業創造展26」へ初出展する。

開展は「技術が紡ぐ食の未来」FoodTech×Sustainableをテーマに食品産業が直面する人手不足・自動化・コスト構造の変革へ、いま本気で向き合う経営者・管理職・技術者のための展示会として食品製造・ロボット・AI・工場設備など「技術」を現場の課題解決に結びつける「判断の場」を提供する展示会。

長年にわたり西日本食

外観②と当時の様子①

あった地場大手のローカルスーパー新店への採用を行い検証したほか、この当時よりスーパーマーケットトレードショーなど公の場での露出を高め認知拡大に努めた。既にデジタル技術を駆使したI・O・T管理システムへと

その足跡は初号機導入からの日進月歩といえる。

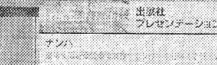
2014年11月にはさらにフロンキーパーの進化を図るため、同社敷地内に「NABNARY Visionary」なる研究棟を建設。現在も難波昇一会長の出勤場所となっている。

先頃、6月12日に東京都千代田区のKKRホテル東京で開催された日設連法人化50周年記念式典において委員長・委員に



波会長は表彰式に出席し、
壮健な姿を見せた。

FOOMA JAPAN
2026での難波袋輔社
長のプレゼンの模様



本年6月8日から11日までの4日間、東京ビッグサイトで開催の東・西両展示棟を使った開催された過去最大規模（出展社数1056、来場者数6万7721名）のFOOMA JAPAN2026では出展社プレセッションセミナーにおいて難波俊輔社長が登壇。

環境大臣賞受賞◆冷凍設備のフロン排出削減でラインも止めない！
として店舗や工場、倉庫などの冷凍設備からフロン漏えいを早期発見できる独自の商品のフロン漏えい検知システム「フロンキー」の既存の冷凍設備に取り付けるとして

品産業創造展としてマリ
ン・スエツ福岡において開
催してはきた歩みを踏まえ
食品産業の明日を担う企
業が集い、新たな価値を
共創する場として中部で
の初開催となる。

主催者は同展の見とこ
ろとして中部圏は豊かな
農業基盤と高度な製造技
術を併せ持ち、東西の消
費地を結ぶ物流の要衝と
して食品産業の新たな価
値創造に適した環境を有
している。また、この地域
に根づく世界に誇る

モノづくりの「精神」と
革新的技術の蓄積は食品
産業において大きな可
能性を秘めているとアピ
ル。出展対象としては「ス
マート食品工場技術分
野」・「食品加工・プロ
セス技術分野」・「ロジ
スティック・搬送技術分
野」・「検査・トレーサ
ビリティ技術分野」・「衛
生・環境管理技術分野」
・「ソフトウェア製造技術
分野」・「食品素材・原材
料技術分野」・「店舗・フ

ードサービス技術分野」
の8分野に分けて訴求を
行う。ナンプンにおいては
A I・IoT活用製造シ
ステムや予知保全を対象
としたスマート食品工場
技術分野などがターゲット
となると思われる。

同社はこれまで食品
流通に直結したスーパー
マーケットトレードショ
ーや国際食品工業展F O
O M A JAPANなど
へ積極的に出展してフロ
アキーパーをはじめとし
る関連商材のPRを行っ

と車内の霜付きを劇的に解消できる「KE2省エネコントロール」の紹介を行った。

今回の名古屋地区で初開催となる第1回中部食品産業創造展26への出展に對して「今や旺盛な産業基盤を礎に第三経済圏と称される愛知県は民力も高く、食文化についても独自性がある。こうした新市場でフロンキーパーやKE2の可能性を探る」としている。

新冷工業、自己資本比率60パーセントへ改善
フロアヒーティングの新需要開発へ

2009年7月に資本業務提携を締結し、ナングル工業（難波俊輔社長、本社・新潟県新潟市東区江南1-2-2）の2026年（26年）9月決算）は大きなブレイクを遂げ、前期横ばいでの着地となる見込み。

当初20万台であった自己資本比率は既にグループ化から5年で60%と大きく財務体質は改善し、引き受け時の借り入れ等についても6年で完全に解消された。その要因として両社でシェアしてきた協業案件が奏功したことが大きいとする。

新冷工業における看板製品は店内環境改善システム「フロアヒーター」で既に2003年の「ベストイノベーション」としての特許取得から導入実績は70件以上に及び、ナンバの主万ユウザルにおいて常時設置が図られてきたが、これまであり潮目が変わりつつある。今後は新たな需要創出へ向けて提案強化を図っていく構えだ。

◆

フロアヒーターはシステムは「ジョーケース」周囲で生じる冷気漏れなどによる床面温度と床面付近の空気温度が大幅に低下することに対し、床面が冷えた状態で快適温度の高い売り場環境を提供す

夏休みことも職場体験
今年近隣小学校も参加

家族は子供を対策に初開
した「夏休み子ども職
体体験」が好評で今年は
隣の小学校へ参加を呼
びかけ、ナンバ、新工立
木、ナンバ冷機サレス
は、7月25日（土）に
開催した。

今回は小学3年生以上
の小学生が参加し、水
鉄砲作りのだけでなく
エアコンの仕組みにつ
いてエアコンって冷たい
の？といった仕組みや
地球温暖化についてで
話、そして皆の家にち
わけている塩ビ管につ
てクイズ形式で共に学
び学習した。

後半は「工作タイム」で、同社が実際の業務で使っている塩ビ管と専用溶着剤を使ってオリジナル水鉄砲を作り、水鉄砲大会で夏の涼をたのむ。一方でナンバにいたい人は「人財育成・福利厚生」に対して常にフラッシュアップを図っている。組みを強化している。の根幹には企業と従業員または顧客との間にある「信頼や愛着に基づく確

とつとして考えられるが、その結露防止対策として天井面の温度を上げることが有効。フロアヒーティングシステムは床面のみならず、輻射熱によって天井面の温度を上昇にも効果があり、天井面（天井材）の温度が上昇する事で、露点温度も上がり結露の発生量を抑えることができる。

い結びつき」というエンゲージメントの向上が、あらゆるミッションとして掲げられる「ナンバーループ」は冷たさ（冷凍空調）に熱（熱意）を込めてエンゲ

次世代を担う若手社員

験の模倣

くものだ。例えばバックオフィス強化によって実働にあたる社員を負担軽減を進めることや社会人としての基本的なマナー教育や実務で使用する機器や道具に触れる実技体験を通して製品知識や設備機器の仕組み、業務の理解を深める「新入社員研修会」といったキャリア

が人財となつて継続的に就業することこそが、事業の安定と

業務やサービスの受付、出張や泊りの進捗状況、回報などの管理が共通のプラットフォームによって確認できるシステムを構築している。さらに今後も進化を図っていく予定だ。

では今年より年間休日数が増える25日へと引き上げている。

ブランドは係長、課長といった各部門の上場エスエッチアップした場合の教育ブランドも手を付ける。こうしたブランドニングを中心に行うのがブランド型戦略部でクラウドタイプの業務改善プラットフォームを駆使して自社内で各種のアプリを製作して利便性を追求する。